

2019. 10雲取山山行記録

記 鳥切昇治



七ツ石山から見る雲取山は女性的な山容

期 日：2019年10月26日(土) 天候：晴・曇

山 域：雲取山(2017m)

メンバー：エミ 鳥切昇治

行動記録

コースタイム

横須賀—横浜 3:45—6:01 小袖駐車場 6:20—7:59 堂所—8:28 まむし岩 8:33—
8:55 七ツ石小屋 9:05—9:40 ブナ坂—10:07 奥多摩小屋 10:12—11:05 雲取山
11:50—13:07 七ツ石山 13:12—13:32 鴨沢分岐—15:31 小袖駐車場 15:50—18:
50 横浜—横須賀

奥多摩へ車でのアプローチはカーナビが無いと分り難く大変だ。奥多摩湖左岸の青梅街道を甲府方面に走り、鴨沢集落からヘアピン右折する。狭いが舗装された林道を上って行くと小袖駐車場に着いた。小袖駐車場は広く、きれいなトイレもある。十数台の車が駐車している。身支度をして出発する。



小袖駐車場



林道から鴨沢登山口に入る

舗装された林道を少し歩き、登山道に入る。道は小袖川に沿って杉・桧林と広葉樹林の中を緩やかに登って行く。良い道で歩き易い。

30分程歩くと石積みの上に石の社がある。その前に平将門 迷走ルートと題した表示板があり「小袖」とあった。

堂所にも平将門伝説「堂所」の表示版が立ててあった。道の右脇に岩が露出した「まむし岩」の所で休む。20分程登



石積みの上に石の社

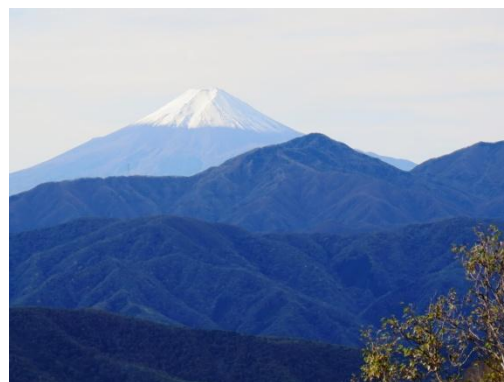


栈橋崩落で通行止めの立て札

って行くと分岐があり、左の道に立札が立ててあり「この先栈橋崩落 七ツ石方面に迂回して下さい」とあった。この道はブナ坂への捲き道で先日の台風で崩落



七ツ石小屋



七ツ石小屋から富士山

し通行止めになった様だ。右の道を10分程登って行くとセツ石小屋だった。裏手に立派なトイレがある。セツ石小屋から見る富士山は素晴らしかった。

小屋のすぐ先に沢があり道が分岐していて、沢を渡ってブナ坂への捲き道に入る。この道は登りを感じさせないなだらかな道で、ご機嫌で森林浴をしている内にブナ



ブナ坂は明るく開放的



奥多摩小屋は閉鎖されていた

坂に着いた。こ　こから雲取山までは道幅が広く開放的で、左手にカラマツ林越しの富士山を眺めながら登る。奥多摩小屋は閉鎖されていた。

ここが小雲取山かな？とピークを二つ越え登って行くと山頂の避難小屋が見え、その裏手が雲取山山頂だった。



雲取山山頂から富士山

山頂からの眺めは素晴らしく富士山の右手に雪をまとった峰々が連なっている。南アルプスの3000m級の峰々だ。



雲取山山頂の測量標識



雲取山で大休止

山頂には三角点が二つある。「原三角測点」(明治16年(1883年)に埋設された)と現在の一等三角点の測量標識で、歴史上貴重なものと書かれていた。

避難小屋の脇で大休止、暖かい日差しを受けランチタイム。予定より大分早く着いたのでのんびり食べる。



雲取山から石尾根を見下ろす



セツ石山手前の石



セツ石神社



石尾根縦走路分岐から鴨沢へ下る

帰路は登って来た道に戻り、ブナ坂から七ツ石山に登る。往路で七ツ石小屋から捲き道に入ったので、七ツ石山には帰りに登ることになっていた。七ツ石山山頂から見る雲取山は女性的に見える。今年は山腹のカラマツの黄葉はまだしていない。

七ツ石山山頂は登山者で賑わっていた。七ツ石山から少し下ると左手に七ツ石神社があった。守り神は天児屋根命、日本武尊命と書かれていた。

石尾根縦走路分岐で七ツ石小屋、鴨沢方面に下る。急坂を下ると七ツ石小屋で後は勝手知った道を快調に下る。小袖近くになり、杉林の中に湧き水が流れていて喉を潤す。冷たくて美味しかった。

明るい内に小袖駐車場に戻って来られた。帰路は分り難い道を走るので早々に小袖駐車場を後にする。

添付

平将門伝説 迷走ルート

以上

平将門伝説 迷走ルート

